

ネギ褐色条斑症状は細菌病

1 はじめに

ネギは水田園芸の基幹作物です。平成26年8月に、雨や風の後には収穫したネギで、県内でこれまでに発生していない軟白部の表面がすじ状に褐変(図1)し、その後腐敗する株が発生しました。品質低下だけでなく、収量も低くなることから問題となりました。そこで、この被害の原因を特定したので紹介します。



2 症状

ネギの被害部から採取した病原細菌を、ネギの軟白部や葉身基部に注射針で接種すると褐色条斑や腐敗を引き起こしました(図2)。また、病原細菌を土壌中に灌注しても軟白部に条斑症状が発症し、病原細菌を葉身に噴霧すると葉身腐敗を引き起こしました。被害部からは接種菌が採取されました。



3 病原菌

細菌同定キットアピ20NEによる検定、プライマーを用いたPCRによる菌の検出状況、SMG-5選択培地によるコロニーの色、形状(図3)から *Burkholderia gladioli* と同定し、ネギ褐色腐敗病であることが判明しました。

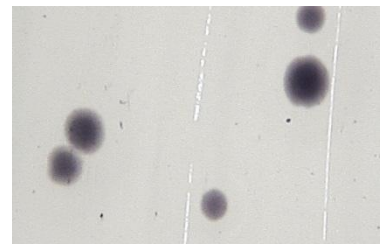


図3 SMG-5選択培地上の病原細菌

4 防除対策

本病は25℃以上で発病し、20℃以下では発病しません。発病適温は28～30℃で、多湿条件が24時間以上続くと発生が多くなるので、発生前からヨネポン水和剤500倍液を3回散布すると発病を抑制できます(表1)。

表1 薬剤によるネギ褐色腐敗病の防除効果(圃場試験)

薬剤名	10a当たり	散布回数	調査株数	発病株率(%)		
				条斑	褐点	計
オリゼメート粒剤	6kg	2回	202	12	5	17
Zボルドー	500倍・300ℓ	3回	203	7	3	10
バリダシン液剤5	500倍・300ℓ	3回	221	11	1	12
ヨネポン水和剤	500倍・300ℓ	3回	218	8	2	10
無処理			212	12	4	16

品種: ホワイトスター、接種: 4月18日、調査: 10月3日、薬剤散布: 7/7～8/17

研究課題名: ネギ軟白部褐色条斑症状の原因解明と防除技術の確立

研究期間: 平成28年～29年

研究担当者: 本多範行・福田明美(農試)